

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称	令和4年度 第3回郷育推進会議	
開催日時	令和4年11月11日（金）19:00～	
開催場所	市役所本館2階 庁議室	
委員名	（1）出席委員 伊藤副会長、木本会長、白坂委員、柳田委員、濱田真委員、橋内委員、濱田遼委員 （2）欠席委員 兄井委員、東委員、関谷委員	
所管課職員職氏名	郷育推進課長 谷口 篤 郷育推進課郷育係長 坂本 剛章 郷育推進課スポーツ文化振興係 岩野 修人	
会 議	議 題 (内 容)	○福岡県社会教育研究大会について ○令和5年度福岡ブロック社会教育委員研修会について
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由	—
	傍聴者の数	1人
	資料の名称	○施策Ⅰ コミュニティ・スクールの推進 ○コミュニティ・スクールと地域学校協働本部をつなぐ仕組み作り
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
	記録内容の確認方法：会長による確認	
その他の必要事項		

審議内容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

事務局挨拶

1. 開会のことば

2. 協議事項

(会長)

福岡県社会教育研究大会に昨日行ってきた。前半は基調講演で、元々県庁の職員でその後社会教育にも関わってきた菊川さんの話で、とても勉強になったが、法令的なことや社会教育の成り立ちなど、難しい話が多く情報量が多かった。後半は分科会で、行政職員のための分科会と社会教育委員のための分科会という面白い分け方だった。

(事務局)

行政のほうは、社会教育委員の意見を引き出すにはどうしたらいいかという内容だった。人数が多いと話がまとまらないので4～7人位がいい、事前に話す内容を分かるようにしておくなどのテクニックの話や会議運営の方法の話。

(会長)

社会教育委員のほうは、沖縄の那覇にある公民館長の話だった。那覇の現状と公民館の役割など福津市と大きく違うところもあり面白かった。

自治会加入率16パーセントで、公民館は10万人あたりに1館の割合でとても少ない。公民館が積極的に活動を作り出していて、移動公民館などもされている。地域のつながりが必要だがその余力がない、といったところで積極的な公民館の活動は身を結んでいる。また、公民館としての情報発信がすごく、若い人が来ている。

福津市で真似できるかというとなかなか難しいかもしれないが、こういう考えがあり活動があるということは勉強になった。

後半のワークショップは、社会教育委員になったばかりの人達で、何をすればいいのか分からないということだった。

(事務局)

3年ぶりに開催されて、初めて参加した。講演は、社会教育変遷などについてだった。社会教育施設や社会教育士の現状、中央教育審議会についての話を聞くことができ、行ってよかった。社会教育について、福岡県は全国の中でも進んでいるし、その中でも福津市は進んでいるという話は参考になった。

(会長)

コミュニティ・スクールを取り入れているのは福津市では100%で、地域社会教育に関連する地域活動協働本部も福津市は100%。新しい展開を模索するときに、連携やつながりが必要。子どもを支えることは福津市を支えること。回って自分達に返ってくる。

これまでは、コーディネーターの役割が自分達とつながっていなかった。コーディネーターとつながることで、学校ともつながれるし、自分達の中でもつながることができる流れができるのではないかと。研修会や個別に話を聞くことで、コーディネーターの役割のことを、自分達も理解しないとイケないし、コーディネーターにも社会教育を知ってもらわないとイケない。

12月は現状を伝えるパネルディスカッションになる。配布している「コミュニティ・スクールと地域学校協働本部をつなぐ仕組みづくり」の資料を元に話をしようと思う。

コーディネーターとの連携や学校教育との連携をし、社会教育団体の活動の活性化のために新しい取り組みに向かっていきたいと思う。前回の宿題について、具体的にほかの活動団体や子どもとつながるための取り組みはあるか。

(委員)

アンビシャスは7広場あり、前はバラバラに活動していたが、数年前から市の連絡会を3月に1回集まるようになって、皆で何かしようとなった。7広場で連携したことはとても良かった。新宮町は広場が1つしかないが、新宮、古賀、福津、宗像でも連携もしているいろんな活動もしている。

活動の年齢は高齢化しているが、昔は地域の人がいっぱいいたが、最近は保護者の方の応援も多い。学校教育だけではなく、社会教育を大事にしている保護者も多い。

(会長)

活動の中でコーディネーターがつないでいる現状はあるか。

(委員)

無い。前からコミュニティ・スクールみたいな考え方をしていた。

(委員)

先週、市民文化祭を3年ぶりに開催したが、小中学生がちらほら日本舞踊に参加したり、書道教室にも若い人もいたりするが、まだまだ一握り。

(会長)

コーディネーターが情報を学校に持っていけば、次世代教育でやっていたような体験イベントが、文化協会でもやれそう。

(事務局)

切り絵サークルの小学生の作品がとても素晴らしかった。体験会で1度やってから、はまって新宮から月一回通っている。「何がきっかけで興味が出るか分からないし、それで若い人が興味を持ってくれるきっかけづくりができたことがうれしい」と言われていた。文化祭は大盛況で、活動を知ってもらえるいい機会。

(会長)

プログラミングの教室など、子どもが多すぎて全く入れない。何かさせたいと思っても子どもが多すぎて参加できない状況で、文化協会の活動など知ってもらえば活性化のチャンスはあるが、情報が共有されていないと参加されない。

(委員)

子ども向けの教室は多いが、申し込みの方法がよく分からない。広告に出ている、申し込みの窓口が分からなかったり、仕事や時間の都合で連絡できなかったりする。自分がさせたいことを中心に情報を選んでいるので、選択肢が多い中からの取捨選択も難しい。行ってみたら意外と良かったと思ったり、そうでもなかったりすることもある。

(会長)

情報が整理されているといい。

(委員)

1つのきっかけ、最初の一步として体験会があるといい。

(会長)

社会教育団体の横のつながりもあまりなかったのかもしれない。子どもがやることで親もはまってやることもある。知るということはスタートとして大事。コーディネーターがつなぐことを、最初から期待するのではなく、まず知ってもらうこと。限られている中でやるのではなく循環していかないといけない。

(委員)

どこまでPRするか、どのようにPRすればいいのかというのが難しい。

(事務局)

市民文化祭に行く前は、趣味の活動と思っていたが、実際に見てみると内容が素晴らしくびっくりするような作品がいっぱいあった。体験コーナーをロビーなど目立つ場所でやればいいのか。

(委員)

切り絵は年何回か体験会をしているが、活動範囲がどうしても津屋崎だけになってしまう。文化祭をしたことで、イオンのブースで何かしてくださいと初めて話が来た。来年度に向けて実際にやれることを検討していきたいと思う。

(会長)

学校から発信されるものではなく、スポーツ推進委員のほうから発信するものはないか。

(委員)

小学校との関わりは、体力測定。イベントとして駅伝大会や市子連ドッジボール大会など。各地域の公民館から依頼があれば出前講座などを行っている。

(会長)

アンビシャスなどがスポーツイベントを企画して、協力依頼することなどはできるのか。スポーツ推進委員が提供できる情報を「見える化」すれば依頼できたりする。

(委員)

今のところ、主体的に発信する体制は無い。

(会長)

自主的に何かでなくとも、何ができるかという事がはっきり分かれば、こちらから依頼できたりする。

(委員)

体力チャレンジを年1回やっているが、子ども対象だけではなく、高齢者向けの体力チャレンジや、レク式体力チェックをレクレーション協会の方に教えてもらうなどできればという案も出ている。

出前講座では、地元の高齢の方に楽しんでもらっているが、年1回だと楽しいで終わるので、各自治体に指導者を育成し継続することができればと思う。

(委員)

来年度は文化協会と一緒にできるイベントを考えている。スポーツ推進委員にもドッジボールの審判講習会だけでなく大会本番も手伝ってもらい、スムーズに進行できた。せっかくこの場で集まっているので、ぜひつながり、知ること、新しい考えにも触れることができると思う。

(会長)

情報が共有されると、可能性が見えてくると思う。

(副会長)

改めて今日話を聞いて自分が知らないことがあったので、情報共有は大事だと思う。各団体の発信と受信について、それぞれの団体が、活動内容の発信をやっているにも関わらず、活動が縮小傾向にあるのは、「何をするのか。どのようにするか」ばかり考えていて、「何のために活動するか」という活動の価値や目的が見えていないからではないか。「何をするか」から見ると「負担」を見る。結果、弱体化していく。

子どもの頃に多種多様な経験をすることで、将来多種多様な選択肢の幅ができる。活動の中身の発信も大事だが、「何のために何を大事にしているか」の情報を発信して、お互い受信し、そして市民が受信できる仕組みを考えていかないといけない。そして、何をしているか分かればつなげないといけない。先ほど教育委員会とも話をして、大方、市も同じ考えを持っていることが分かったので、今年は課題を整理して、それに対して、来年はこんな議論、取り組みをしていますと発表すればいい。

神興東小の文化祭で10月23日に科学実験コーナーを出展したが、出展者を探すのは難しい。学校に情報提供することで出展し、宣伝発信すること

につながる。学校に直接持っけていても無理なので、コーディネーターを経由することで、授業には無理でも、文化祭で体験コーナーをしたいと言えば学校側は受け入れてくれる。

社会教育団体とコーディネーターが、組織的連携を図れる場を作ってほしいと教育長に依頼した。コーディネーターを通せば学校も受け入れやすいので、連携協働が大事。

(副会長)

「いい時代」というのは良いキーワードで、昭和の頃は学校で習うことを学べば生きていけたが、今の時代、学校だけでは生きていけない。多種多様な経験や人と関わる力などの価値をうまく伝えるかの情報発信力が大事になる。

デジタルなものが流行ってきたからこそ、原体験も大事になる。両方とも大事だが、原体験をすることで、イメージ力や想像力が育ち、気付きが豊かになる。オンラインを含めいろいろな体験がある中で、直接的な体験の価値を伝えることが大事。

(委員)

土器や石などを触るリアルな体験をして、アナログで、物の持つ力に触れさせる。遠方の展示などはオンライン体験できるが、その場の空気感は行かないと感じることができない。

(会長)

郷育カレッジでスタードームを作っているが、刃物を使って竹を加工する中で、付き添いの親も使ったことがないので必死でやっている。アナログでテントを作ったという達成感もある。

夏休みに子ども向けの講座をピックアップして学校に配布している。文化協会の冊子も大変すばらしいものだが、子どもが読めるような工夫をしてみたり、楽しいところに人は集まるので、「何をしますではなく、これをしたらこんなに楽しいよ。先に何があるよ」を伝えるインフォメーションの工夫をしたりすることが大事。自分たちだけでは出てこないような考えが、皆で話し、研修会に参加することで参考になる。そういう展開になると社会教育も活性化する。社会教育というと難しいけれど、地域で子どもが遊び、大人も学べる環境ができればそれは社会教育になる。一緒に楽しめる何かを福津市の中で作り上げることができればいい。

今日は次年度につながる話ができた。今見えてきたいろいろな可能性、自分たちの団体だけではなく、ほかの団体やコーディネーターとのつながりの中で、学校の現場で何が求められているかが分かり、活動の場所の広がりにつながる。

次年度の研修について

10月27日、13日の金曜日が候補日

駐車場や弁当など具体的な話もしていかないといけないし、コーディネーター活動団体の人にも来てほしい。次回は詳しい内容について話していく。

次回1月18日(水)19時

